

中学校における金融教育の 実践後の金融・経済意識

—メタ認知に着目して—

Financial - Economical Attitudes after the Financial Education in Junior High Schools:
A Focus on Metacognition

○室町 祐輔¹ 上市 秀雄²

Yuusuke Muromachi¹ and Hideo Ueichi²

筑波大学理工情報生命学術院¹ 筑波大学システム情報系²

Graduate School of Science and Technology, University of Tsukuba¹,
Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba²

muucurucuru@gmail.com

背景

金融教育について

- 中学生において、お金を使って物を買う経験自体は多い
- モノの価値を正しくとらえる機会が不足
(研究協力校ホームページより：
http://www.tsuchiura.ed.jp/~4tyuu/html/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=1778,
最終閲覧日2020/2/21)

メタ認知について

- 自己の経験を振り返り、理解し、自己を制御することに関する認知
(Schraw & Dennison, 1994)
- “適応的な方略を獲得するためには、学習者自身が方略についてどのように認識しているか、すなわち、メタ認知の働きが決定的に重要となる”
(瀬尾・植阪・市川,2008)
- 金融教育における学習の着眼点はメタ認知能力によって、個人差が見られる可能性が高い

目的

- 目的 1 : 中学校で実施された金融教育において、生徒自身が感じている“学んだこと”を明らかにする
- 目的 2 : 実施された金融教育により生活におけるお金について学べた程度と、メタ認知の能力に正の関係があることを明らかにする

方法

- 調査対象：関東圏の中学生(7-8年生) 367名(有効回答数327名)
 - 8年生 175名 (男性92名, 女性81名, 不明2名)
 - 7年生 152名 (男性66名, 女性85名, 不明1名)
- 実施時期：2019年12月
- 調査方法：質問紙法
- 分析方法1：自由記述をカテゴリー別に分類
 - ・コスト (価格や材料費などに注目)
 - ・プロモーション (宣伝や接客に注目)
 - ・プロダクト (製品の質や安全性, 見た目に注目)
 - ・サービス (接客など付加価値に注目)
 - ・その他 (取引先や販売場所, 販売戦略などに注目)
- 分析方法2：相関分析

質問項目

- 金融教育で経験した金融・経済に関する意識を問う質問,2項目(自由記述)
 - 質問1：モノやサービスの価格を決める上で、大切なことは何ですか？
 - 質問2：商品を売るために、必要なことは何ですか？
- 金融授業後、生活におけるお金の考え方の変化を問う質問,7項目(5件法)
 - 例1：家庭で生活している中で、どこにお金がかかっているかわかった
 - 例2：いま、自分が1か月でどのくらいお金を使っているかわかった
- メタ認知*に関する14項目（5件法）
 - 例1：自分のとっている方法がうまくいっているか、分析している
 - 例2：自分の興味のあることについては、より深く学んでいる

メタ認知質問項目(14項目5件法, $\alpha=.915$)

自分のとっている方法がうまくいっているか, 分析している

自分の行動が結果にどう影響するかを, 考えている

自分なりの答えを出す前に, 別の答えについても検討している

今の行動がうまくいっているかどうかを評価し, さらに結果が出た後に再度自分の行動を評価する

考えられる選択肢をすべて考慮したかどうか, 自問する

自分は, 今, 何をすればよいのかを把握できている

複雑に見える問題でも, 単純な問題としてとらえなおす事ができる

何らかの問題を解決するときには, 「いつ, どこで, 何を, どのようにすればよいか」 などについてよく考える

初めて聞く情報や知識は, 自分の分かりやすいように置き換えて, 身につくように工夫している

考えがまとまらないときは, 今までの考えを白紙に戻して新たに考え直す

自分が, 何が得意で, 何が不得手かをわかっている

自分の興味があることについては, より深く学んでいる

他人の経験をうまく参考にできる

自分の精神状態をきちんと把握できる

結果 1：金融教育において、 生徒たち自身が感じている“学んだこと”

1：モノやサービスの価格を決める上で、大切なことは何ですか？

- 自分たちに出る利益を考えうえで、買いやすい値段などに設定すること(コスト)
- その商品がどれだけ優れているか、安全であるかを確かめる(プロダクト)
- その商品の付加価値はどんなものなのかを考える(サービス)

- コスト...267名
- サービス...17名
- プロモーション...2名
- 環境...13名
- プロダクト...17名
- 無記入...11名

2：商品売るために、必要なことは何ですか？

- コストなどを考えうえで価格の見直しなどをする(コスト)
- 商品の良いところを宣伝したり、実際に触ってもらうなどする(プロモーション)
- 前回の販売での反省を次に生かし、改良すること(その他)

- コスト...71名
- サービス...21名
- プロモーション...76名
- 無記入...15名
- プロダクト...55名

結果 2 : 実施された金融教育により生活におけるお金について学べた程度と, メタ認知能力

Table1

”金融教育で生活におけるお金について学んだ”程度とメタ認知能力の相関

	メタ認知能力
家庭で生活している中で, どこにお金がかかっているかわかった	.319**
家庭で生活している中で, ひと月にどのくらい, お金がかかっているかわかった	.343**
家庭で生活している中で, 自分が, お金を節約するためにできることが分かった	.368**
いま, 自分が1か月でどのくらいお金を使っているかわかった	.352**
友達と出かけるときに, その日にどのくらいのお金を使うか考えるようになった	.327**
もし一人暮らしをしたら, どのくらいお金が必要になるかなんとなくわかるようになった	.445**
もし社会人になったら, どのくらいお金を稼いで, どのくらい使うか想像できるようになった	.407**

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

考察1：自由記述による“学んだこと” について

- 自由記述について、金融教育の中で実際に金銭のやり取りを行う経験を通して、具体的な対策を考えられている回答がみられた。
→経験から自分にできることを、自分なりに考え具体的な方法の提案という学習効果がみられた。
- 価格を決める上で大切なことについて、利益やコストといったキーワードが多くみられた。特に、コストについては人件費や材料費など、具体的にどこにお金がかかっているのかに注目している生徒が多くみられた。
→今回の金融教育ではコスト意識を身に付けたということが、大きな成果であるといえる。
- 一方で、商品を守るために必要なものについての回答には、コストに限らず、宣伝や製品の質、接客、ビジネスパートナーである仕入れ先にまで触れている回答が見られた。
→質問1が“価格”にフォーカスしているのに対し、質問2では販売全般に関する質問であったが、その違いを正確にとらえている生徒が多かったことがうかがえる。

考察2：“生活におけるお金について学べた”程度とメタ認知の関係

- 全項目で、“生活におけるお金について学べた”程度とメタ認知能力の間に正の相関がみられた。
 - 自己の経験を振り返り、理解し、自己を制御する能力が高いほど、学校で学んだことを自分の生活に適用して学ぶことができることが示唆された。
- 特に相関が強かったのは、“もし今自分がお金を管理することになったら”ということに関する2項目であった。
 - メタ認知能力が高いほど、同じ学習内容から、これからの自分とお金の関係をイメージすることができるようになったといえる。

今後の課題

- 今回は短期間に集中して、実際の金融活動について実際にお金ともののやり取りを通じての学習だったため、学習効果は大きかったといえるものの、継続的に学習を続けていくことが必要である。
- 生活におけるお金について、学んだと感じていることが、今後具体的にどういった行動に変化していくかを、継続的に調査することで、“学んだと感じていること”が“学んだこと”に変化することにはなにが重要なのか、理解することにつながると思われる。
- 今回は学習に関する要因として、メタ認知を取り上げたが、今後はメタ認知に含まれる下位尺度についても分析し、具体的にどの能力がどのタイミングで効果的に影響するのか、詳細な分析が必要である。

参考文献

- 室町・上市(2015).メタ認知尺度作成の試みー後悔状況における適応的行動との関連性の検討ー. 日本心理学会第79回大会発表論文集. 1PM-101.
- 室町・上市(2014). 後悔対処メタ認知が後悔・対処法・適応的行動に及ぼす影響, 日本心理学会第78回大会発表論文集,1EV-1-099
- Schraw & Dennison(1994). Assessing meta-cognitive awareness. *Contemporary Educational Psychology*. 19. 460-475.
- 上市・楠見(1998) 損失状況におけるリスク行動の個人差を規定する要因,日本リスク研究学会誌. 10(1). 65-72.
- 瀬尾美紀子・植阪友理・市川伸一(2008). 学習方略とメタ認知.三宮真智子(編). メタ認知: 学習力を支える高次認知機能. 北大路書房. pp. 55-73.

付録：本研究における金融教育について

- 研究の視点「生きた知識としての金銭・金融教育の実践」
- 研究の視点を踏まえた活動
活動内容：販売活動を通して、モノやサービスの価格や価値がどのようにして決まって猪飼について考える
- 具体的な活動について
7年生：商品の企画や販売を通して、モノやサービスが流通する上で、どの様にお金が行っているのか、どうすれば商品が売れるのかについて理解する。

8年生：継続的に商品を販売することで、モノにどのように付加価値が生じているのか、資金の流れや持続的にモノやサービスを提供する上での工夫について考える。
- 各学年の活動実践
7年生：学年全体で商品の企画・販売。うちわを業者に制作を依頼し、それを生徒が販売した。
また、自主制作した缶バッチの販売法を考え、バザーで実際にお金を使用して販売した。
8年生：各学級で、継続的に商品の販売を行った。まず、販売するものと販売方法を考え、地域のショッピングモールなどで販売活動を行った。一度の経験で学んだことを次の販売に生かす工夫をしながら、販売活動を繰り返した。

(研究協力校ホームページより：

http://www.tsuchiura.ed.jp/~4tyuu/html/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=1778, 最終閲覧日2020/2/21)

謝辞

- 本研究の趣旨を理解し快く協力して頂いた、中学校の先生方および生徒の皆様
に心から感謝します。本当にありがとうございました。